# 平成18年人文学部文化コミュニケーション学科
# 教員研究業績一覧（'06.1.1—12.31）
# Academic Achievements in 2006:
# Department of Culture and Communication, Faculty of Arts

凡例：
氏名　①著書 ②論文・研究ノート ③翻訳 ④書評・随筆等 ⑤学会・研究会等での報告 ⑥その他

## 言語コミュニケーション

橋本　功　② 1)「聖書のメタファー分析」(『人文学部論集<文化コミュニケーション学科編>』40号，27—44頁）[共著] 2)「地域価値を高める双方向高大連携の試み」(『地域ブランド研究』2号，地域ブランド研究会，145—168頁）[共著] 3)「共通教育における受講者数と単位取得率：適性受講者数算出に向けての基礎研究」(『大学論集』37集，広島大学高等教育研究開発センター，183—194頁）[共著]

須澤　通　②「Mechthildのドイツ語—神秘主義的語彙の発展—」(『信州大学人文学部論集<文化コミュニケーション学科編>40号，45—58頁）[単著] ⑥ドイツ語テキスト「Unterwegs mit Tobi（はじめようドイツ語)」(郁文堂）[共著]

花崎美紀　① 1)『英語の「機能語」と呼ばれる語の意味ネットワークと孤立用法に関する意味論的・史的研究』(平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（C 2））研究成果報告書）[共著] ② 1)「Forの意味論」(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』40号，信州大学人文学部，59—78頁）[共著] 2) "A Step toward the Improvement of English Teaching: A Semantic Approach to -Ment and -Tion" (『教育システム研究開発センター紀要』11号，信州大学教育システムセンター，131—148頁）[共著] 3)「地域価値を高める双方向高大連携の試み」(『地域ブランド研究』2号，地域ブランド研究会，145—168頁）[共著] 4) "The Semantics of *As* -TIME (WHEN), REASON, RESULT, CONSESSION" (『英語の「機能語」と呼ばれる語の意味ネットワークと孤立用法に関する意味論的・史的研究：平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（C 2））研究成果報告書』，89—100頁）[共著] 5)「Asの意味論」(『英語の「機能語」と呼ばれる語の意味ネットワークと孤立用法に関する意味論的・史的研究：平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（C 2））研究成果報告書』，78—88頁）[共著] 6)「Withの意味論」(『英語の「機能語」と呼ばれる語の意味ネットワークと孤立用法に関する意味論的・史的研究：平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（C 2））研究成果報告書』，140—152頁）[共著] ⑤ 1)「信州大学の英語e-Learning化の取り組み」(LCW，2月18日，慶応大学）[単独] 2) "The Semantics of Preposition—比喩による意味拡張の問題点—" (LCW，2月18日，慶応大学）[単独] 3)

「Withの意味論」（日本近代英語協会，5月19日，名古屋大学）［共同］4）「英語らしい英語をはなすために　—発音編—」（信州大学人文学部英語学分野と長野県立松本県ヶ丘高校コラボレーション企画，6月7日，県ヶ丘高校）［単独］5）「英語らしい英語をはなすために　—複数のなぞ—」（信州大学人文学部英語学分野と長野県立松本県ヶ丘高校コラボレーション企画，6月7日，県ヶ丘高校）［単独］6）「英語らしい英語をはなすために—接続詞編—」（信州大学人文学部英語学分野と長野県立松本県ヶ丘高校コラボレーション企画，6月7日，県ヶ丘高校）［単独］7）「"Over-V" 使用場面に動機付けられた統語パターン」（日本認知言語学会，9月23日，京都外国語大学）［共同］8）「overの意味論」（日本英文学会中部支部大会，10月7日，三重大学）［共同］9）「「上」を表す前置詞の多義と棲み分け」（日本英語学会，11月4日，東京大学）［単独］10）「否定疑問文再考」（日本英語学会，11月5日，東京大学）［単独］11）"Various Collaboration in an English Class on e-Learning System"（CIF, 7th International Forum on Photonics and Science and Technology, 11月28日, 千歳科学大学）［共同］12）「英語らしい英語をはなすために—複数のなぞ—」（高校説明会，12月12日，松本蟻ヶ崎高校）［単独］⑥日本英文学会中部支部事務局長（2006年10月～）

**日本言語文化**

沖　裕子　①1）『日本語談話論』（和泉書院，543頁）［単著］2）『平成14～17年度科学研究費補助金基盤研究B課題番号14310196研究成果報告書　方言文法調査ガイドブック2』）［共著］3）『文化の記憶と記録』累積第3版（信州大学人文学部文化コミュニケーション学科，「第12章　話しことばの世界」，81—86頁）［共著］②「接続詞の文法化—気づかれにくい方言「それで」—」（『科学研究費成果報告書　方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究』，69-80頁）［単著］④ 1）「待望の相互交流が実現して—信州大学人文学部主催：日韓言語文化研修プログラム2005—」（『信大日本語教育研究』6号，信州大学日本語教育学研究室，88—94頁）［単著］2）「「私」の言語学」（言語学出版社フォーラム，リレーエッセイ8月11日，http://www.shohyo.co.jp/gengosf/）［単著］⑤ 1）「日本のことば再発見～方言と国際化する日本語～」（諏訪市公民館主催平成17年度市民大学講座講師，2月21日，諏訪市中央公民館・　有線テレビ放映）［単独］2）「もう一度学びたい日本のことば講座」（諏訪市公民館講座，10月13日，20日，諏訪市中央公民館）［単独］3）「アクセントとイントネーション」（韓国カトリック大学学術祭講演，2006年9月29日，韓国カトリック大学小講堂）［単独］⑥ 1）日本語教育学会査読協力者　2）社会言語科学会学会誌編集委員（2001年8月～2006年7月）3）社会言語科学会大会委員　4）社会言語科学会理事　5）日本方言研究会世話人　6）日本語学会評議員　7）国立国語研究所全国方言調査委員　8）日本学術振興会平成17年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）学術図書（課題番号：175115）〔単独〕

山田健三　①『国際ワークショップ「典籍交流（訓読）と漢字情報」』（北海道大学）［共著］② 1）「古辞書をめぐる謎—部首システムの変遷理由—」（『國文学　解釈と教材の研究』51巻4号，学燈社，85—89頁）［単著］2）「言語史資料としての出土文字資料—日本語書記史記述のために—」（『國文学　解釈と教材の研究』51巻4号，学燈社，90—93頁）［単

著］⑤「宋版一切経附載音釈について」（国際ワークショップ「典籍交流（訓読）と漢字情報」，8月21日—22日，北海道大学）［単独］

渡邉匡一　①1）『続神道大系＜習合神道＞』（神道大系編纂会）［共著］2）『中世浄土宗寺院における学問形成についての基礎的研究』（平成14—17年度科学研究費補助金研究成果報告書）［単著］3）『中世文学研究は日本文化を解明できるか　中世文学会創設50周年記念シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」の記録』（笠間書院）［共著］②1）「光国関係資料から見る善通寺蔵書形成の一齣」（『古典形成の基盤としての中世資料の研究』，国文学研究資料館，9—18頁）［単著］2）「『涅槃像考文抄』『涅槃像一座談』翻刻と紹介（その一）」（『人文科学論集＜文化コミュニケーション学科編＞』40号，信州大学人文学部，153—163頁）［単著］3）「光明山観音院圓通寺蔵書目録」（『むろまち』10号，室町の会，1—11頁）［共著］4）「日本（ヤマト）からのアプローチ—中世における琉球文学の可能性—」（『中世文学』51号，中世文学会，16—22頁）［単著］5）「『遺老説伝』を記す人々」（『国文学　解釈と鑑賞』71巻—10号，至文堂，99—106頁）［単著］6）「法の道を伝える僧侶たち」（『佛法紹隆寺開創千二百年記念誌』，佛法紹隆寺，341—378頁）［共著］⑥1）「『糸玉鈔』について」（宝聚院大般若会，1月29日，宝聚院）2）中世文学会委員

和田敦彦　①『力行海外移住史料室　蔵書・目録集』（財団法人日本力行会，1—220頁［共著］）④「紹介　地域連携オフィス」（『地域ブランド研究』2号，地域ブランド研究会，173—176頁）⑤“Acquiring books from Occupied Japan : Examining Collection Building Efforts of North American University Libraries, 1945-1952,” National Library of the Netherlands : Society for the History, Authorship, Reading & Publishing, July 12, 2006.［単独］⑥1）「読書と出版の歴史を考える　1～15」（信州大学，Eラーニング教材，［単著］）2）『地域ブランド研究』（2号，地域ブランド研究会，編集担当）3）日本文学協会運営委員 4）日本近代文学館史料協議会委員

白井　純　②1）「手書き文字で異体字が生まれるプロセスは何か」（『國文学　解釈と教材の研究』51巻4号，学燈社，118—121頁）［単著］2）「ハイパーテキストを活用するには何が必要か」（『國文学　解釈と教材の研究』51巻4号，学燈社，122—125頁）［単著］⑤「高山寺旧箱番号調査報告（要旨）」（国際ワークショップ「典籍交流（訓読）と漢字情報」，8月21日—22日，北海道大学）［共同］⑥「ら抜きことばと「日本語の乱れ」」（模擬授業，9月2日，野沢北高等学校）［単独］

木暮律子　⑤「会話における発話権の終了」（第4回名古屋大学日本語教育研究集会，8月7日，名古屋大学国際言語文化研究科）［単独］

**比較言語文化**

野津　寛　②「ホメーロス『オデュッセイア』—ヨーロッパ精神の起源—」（『文化を読み解く—文学作品に見る東洋と西洋—）『長野短期大学　2005年度市民カレッジ報告書)』，長野短期大学，）〔単著〕⑥1）日仏ギリシャ・ローマ学会事務局長として，2回の講演会を開催（3月18日及び7月8日）2）「信州大学人文学公開講座　第51回夕べのセミナー」講師を務める，「ギリシア悲劇を読むソフォクレス『オイディプス王』」（12月20日）3）学術誌『フィロロギカ』第1号への査読協力

渋谷　豊　③E.ボーヴ著『きみのいもうと』（翻訳，白水社）［単独］④1）「立ち読み『ぼくのともだち』」（『ふらんす』１月号，白水社，36—37頁）［単著］2）「素寒貧で，ちょっと可笑しいボーヴ・ワールド」（『文學界』10月号，文藝春秋社，290—291頁）［単著］3）「私の好きなダメ男たち」（『出版ダイジェスト』10月・11月号，白水社，第1面）［単著］

**アジア言語文化**

氏岡真士　②「也谈柏林本《列国志传》」（『人文科学論集＜文化コミュニケーション学科編＞』40号，信州大学人文学部，93—102頁）［単著］

伊藤加奈子　②「中国語の“偶然”に関するノート」（『人文科学論集＜文化コミュニケーション学科編＞』40号，信州大学人文学部，103—110頁）［単著］

**ヨーロッパ言語文化**

滝澤　壽　②「佐伯祐三のフランス」（『クインテット』26号，『クインテット』刊行会，89—108頁）［単著］⑤「佐伯祐三のフランス」（第８回シャンソン研究会，2006年11月１日，神戸大学国際文化学部）［単独］

株丹洋一　②「ホフマンスタール『チャンドス卿の手紙』論」（日本独文学会東海支部『ドイツ文学研究』38号，29—39頁）［単独］⑤「文部科学省特色ある大学教育支援プログラム　環境マインドをもつ人材の養成　平成18年度『海外環境教育実地調査（ドイツ・デンマーク・スウェーデン）』報告」（12月，信州大学）［共同］⑥「グリム童話「いばら姫」のルーツ」（岡谷南高校一日大学，12月14日，岡谷南高校）［単独］

吉田正明　② 1）「Il était une bergère について」（『フランス文学研究　原野昇教授ご退職記念特集号』24号，広島大学フランス文学研究会発行，572—583頁）［単著］2）「ブラッサンスの「セートの浜辺に埋葬のための嘆願歌」注釈」（『人文科学論集＜文化コミュニケーション学科編＞』40号，信州大学人文学部，79—92頁）［単著］⑤「ブラッサンスの「澄んだ泉の中で」について」（「第７回シャンソン研究会」，５月19日，信州大学人文学部）⑥「ゲンスブールについて」（特別講演，11月2日，神戸大学国際文化学部）

**英米言語文化**

清水　明　①『ガリヴァー旅行記〜シリーズもっと知りたい名作の世界５』（ミネルヴァ書房）［共編著］④「書評『ジェイン・オースティンの読書会』」（『英日文化』86号，英日文化協会，112—113頁）［単著］⑥「原典『ガリヴァー旅行記』」（伊藤哲哉の弾き語り一人芝居『ガリヴァー・ウェハース』の解説，12月21日，絵本美術館＆コテージ森のおうち）

杉野健太郎　②「ジョン・チーヴァーと神話」（『神話・象徴・文化』，楽浪書院，169-198頁）［単著］⑤ 1）「幻滅のニュー・フロンティア—John Cheever, *The Swimmer* の意味と意義」（日本アメリカ文学会第45回全国大会，10月14日，法政大学）［単独］2）「映画『泳ぐひと』とアメリカ神話」（日本映画学会第２回全国大会，12月２日，大阪大学）［単独］⑥e-Learning 教材『英語発音・聴き取りの基礎』（「信州大学“学び”のビッグバンプロジェクト」，文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム・現代 GP）［共同制作］

飯岡詩朗　②「ハリウッド探検／冒険映画のイデオロギー的変容　『類猿人ターザン』の〈アフリカ〉」(『人文学論集＜文化コミュニケーション学科編＞』40号，信州大学人文学部，111—127頁）［単著］

**非言語コミュニケーション**

船津和幸　②"Hasta-mudra System and Kinesics in in Natyasastra Tradition" (*Sanskrit Studies Centre Journal*, Vol.II, Silpakorn University, Thailand, 170—183頁）［単独］⑥1)「モーツアルトの楽しみ方」(非言語コミュニケーション講座連続公開講座，まつもと市民芸術館共催・テレビ信州助成，6月17日，8月19日，9月9日，10月17日，11月11日，12月9日，まつもと市民芸術館）［コーディネーター］2)「Lalish Theatrelabor "No Shadow"」(非言語コミュニケーション公開講座，7月4日，信州大学人文学部）［コーディネーター］3)「これが学部での講義だ」(第27回信州大学特別講座，8月26日，松本大学予備校）4)「人文学部ルネッサンス2007」(『大学入試シリーズ信州大学文系前期日程人文・教育・経済2007』，教学社，8－9頁）［単著］

北村明子　①1)「記録される身体—ダンスと記憶—」(「文化の記憶と記録」，信州大学人文学部文化コミュニケーション学科，125—129頁）［単著］2)「「ダンス的瞬間」と「破壊」というダンスの欲求」(『Journal of Artistic Anatomy』vol.10，7—10頁）［単著］⑥ダンス作品1）"Elephant Rose" (Leni-Basso主催　提携まつもと市民芸術館，2月3日，2月17—18日，3月3日，まつもと市民芸術館，伊丹アイホール，福岡イムズホール）［単独］2）オペラ「愛の白夜」(神奈川県県民ホール・文化財団主催，2月24日，26日，神奈川県民ホール）［単独振付・出演］3)「一泊二食付き」(慶応義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機構・文部科学省科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成事業主催，BankART 1929，3月11日—12日，15日）［振付・出演］4) "ghostly round —circulation—" (Art Factory European capital of culture-Patras Greece, Berner Tanztage 2006 Kunsthalle Switzerland, Ludwigsberger Schlossfestspiele 2006, Reithalle Germany, 6月10日—11日，13日—14日，17日）［単独振付］5) "Rondo-world premier ver.-" (ダンスセレクション2006　世田谷シアタートラム　アンクリエイティブ主催，10月14日，15日，世田谷シアタートラム）［単独振付］6) "Paradiselogue —work in progress—" (Leni-Basso主催　セゾン文化財団助成金企画，11月9—12日，森下スタジオ）［単独振付］インタヴュー 7)「対談　北村明子＋乗越たかお」(『DANZA』2号，株式会社東京MED，14—15頁）［共同］8)「薔薇の迷宮を彷徨い進む」(『DDD』vol.8，フラックス・パブリッシング（株），158頁）［単独］9)「音楽に負けない動きのアイデアを」(『DANCE MAGAZINE』3月号，新書館，91頁）［単独］10)「Dance Selection 2006 振付家4人にインタヴュー」(『DDD』vol.8，フラックス・パブリッシング（株），11月1日，144頁）［単独］